第 59 回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会　後援／大阪府・公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会

●大阪府知事賞

日本圧着端子製造株式会社	岸下真理　岸下和代 都倉泰信　稲垣　誠
楡の木テラス	石井良平
中之島フェスティバルタワー	江副敏史

●渡辺節賞

斑鳩の家	中山大介
東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス	國本暁彦

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大であります。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰します。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものであります。

募集範囲

2009年1月1日から2013年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

*建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

完了検査済証発行日現在39歳以下

審査委員会

委員長　本多友常（摂南大学 教授）

委　員　長坂　大（京都工芸繊維大学 教授）
※50音順

濵田　徹（鹿島建設㈱ 関西支店専任役）

平田　真（大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長）*

松隈　洋（京都工芸繊維大学 教授）

萬田　隆（tmsd萬田隆構造設計事務所 大阪産業大学）

*3月31日で大阪府を退職のため、第1次まで審査

審査

審査委員会4回

●第1次審査

応募作品（大阪府知事賞部門：42点　渡辺節賞部門：15点）より、書類、写真によって、知事賞部門:6点、渡辺節賞:3点を選考

●第2次審査

第1次審査通過作品について現地審査2日間

●最終審査

大阪府知事賞部門：3点　渡辺節賞部門：2点を決定

表彰式・受賞者講演会

●表彰式

とき　平成26年5月28日（水）
本会定時総会式典席上

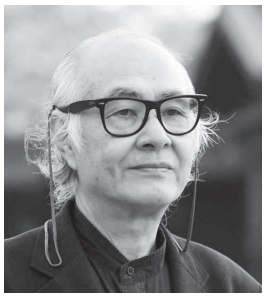
会場　ホテル大阪ベイタワー・4階

●受賞者講演会（後援未定）

日時　7月18日（金）　18：30～

会場　TOTOテクニカルセンター大阪2階会議室

審査経過並びに総評



審査委員長
本多 友常

昭和29年度（1954）より毎年開催されてきた当建築コンクールは、今回から1年おきに開催されることとなった。その結果コンクールとしてのハードルは相対的に高まり、建築に求められる期待も高度なものとなった。その結果応募作品は社会的に影響力の高いビッグプロジェクトも多く、それらの評価のクライテリアをどこにおくべきかについて、議論は百出し多岐に亘った。その過程において、審査という行為は、現代における建築のあり方に対するメッセージを送ることでもあることが、強く意識された。

審査の観点は多面性を帯びたが、コンセプトと結果の間の筋道が厳しく問われることとなった。何をどのように評価し、受賞作品として推薦する理由は何であるか、あるいは推薦しない理由は何であるかが率直に議論された。その結果最終段階での絞込みにあたっては、投票による決定に頼ることなく、各委員の観点とその評価をめぐって意見を出しつつ収束への道を辿ることとなった。

議論の主題は、「保存問題に端を発する都市の持続性と継承のあり方」、「立論の立て方と建築の整合性」、「都市空間への提案性」、「周辺環境との手の結び方」、「新たなビルディングタイプへの挑戦」等々であり、総括的には建築物本体の作品性を超えて、周辺環境との関係性のあり方、生成された意味について、評価の光が向けられたといえる。

第一次審査では知事賞部門42点、渡辺節賞部門15点につき提出書類を閲覧し、現地審査に残すべきものを選定した。選定方法は各人が数票をもって推薦投票するものを選出し、1票でも入ったものについては推薦理由を尊重しつつ、見逃しのないように意見交換され、最終的に知事賞部門候補6点、渡辺節賞候補3点を現地審査対象とすることとなった。

「中之島フェスティバルタワー」は「ダイビル本館」とともに、都市景観の骨格を形成する大プロジェクトとして注目され、旧館の存在感が大きかっただけに、歴史的持続性の課題が重く課せられていた。

しかし「ダイビル」については、最後までオーセンティシティ（真実性）に対する建築的

所作としてのアプローチが議論を沸騰させ続けた。元在った場所を移し、復元的手法を駆使した再生は、都市に於ける場の意味と、建築としての歴史的持続性においてどこまで評価すべきか、設計者が関与できる範囲の事情は十分に理解しつつも、最終的にはこれを是とするメッセージは、控えるべきではないかとの判断に至ることとなった。

一方「中之島フェスティバルタワー」は、その課題をあっさりとすり抜け、現代における高層複合建築のひとつのあり方を示した点で、今日的シルエットを生み出した点が評価された。一般的に現代の高層建築物はカーテンウォールなどの単一の表層によって包まれ、結果的に巨大さの表現として林立する。ここでは旧ホールのボリューム感を利用し、複合的要素を率直に積み重ねた結果が、今日的都市の様相として外観に建ち現れ、遠景、中景にも応答する建築として成立している。

「日本圧着端子製造株式会社」は、各階の床を4つに分割しスキップさせたもので、これをらせん状に繋ぎ合わせて積み上げている。そこに発生しているオフィス空間は立体的にずれた床が重なり合い、自分の位置を把握しにくい錯覚をおぼえるが、そこに配置されている家具やデスクのオフィスレイアウトが、場の安定性を支えている。このように全館を一体の空間として使いこなす意志は、発注者の理解と熱意も一体となったものであり、建築の幸せな造られ方を示しており、オフィスとしてのビルディングタイプを拡張することに成功している。

「楡の木テラス」はローコストの賃貸住宅であるが、6個の平面をずらすことにより住まいとしての機能と生活の質を確保しつつ、まちなみへの軽妙な柔らかさを生み出している。前面に位置する住戸の店舗を可能とした使い方と、奥に位置する住戸のニーズの違いにも配慮しつつ、まちなみへの接続の仕方、スケール感、素材の使い方も含めて、きわめて高い評価を集めたものである。

渡辺節賞

現地審査に残ったものは3点あり、設計者としての力量はともに三者三様に高いポテンシャルを感じさせるものであった。 その中で浮上した判断のよりどころは、「場」の生成において気負いを感じさせない静かな作法にあった。

中山大介氏の「斑鳩の家」と國本暁彦氏の「東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス」はともに置かれた環境において、存在を強く主張するものではない。しかし空間の特異性を突出させないことが、結果的に環境の質に関与する巧妙な手法となっていたとも言える。

「斑鳩の家」は広い農地に囲まれ、白い面を外壁にまとい、小さく、小さく、しかしそれでも凛として気品を保ち、住まいとしての力強さを放っていた。昔から存在していたかのような普通の家としての存在感は、内部の居心地の良さと相まって家のあり方を静かに主張していると感じられた。

「東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス」は多数の教室を襞状に折り曲げ、配置していくことで中庭を生み出し、回遊性を獲得している。これにより校外からは学生達の見え隠れが、ほどよい接触度として制御されており、地域とのつながり方の配慮がほどこされている。

以上の評価により、2年おきのコンクールとなったことに鑑み、今回は小規模な住宅と、大規模な校舎の設計者を、ともに渡辺節賞として推薦することとなった。

大阪府知事賞　日本圧着端子製造株式会社

設計者　岸下真理、岸下和代、都倉泰信、稲垣誠（Atelier KISHISHITA ＋ Man*go design）

撮影　絹巻　豊

建築位置／大阪市中央区
建物用途／事務所
建 築 主／日本圧着端子製造株式会社
施 工 者／鹿島建設株式会社 関西支店
竣工年月／ 2013 年 6 月

構　　造／ S 造、一部 SRC・RC 造
階　　数／地下 2 階　地上 8 階
敷地面積／ 1,226.16㎡
建築面積／ 939.01㎡
延床面積／ 8,245.23㎡

〈審査講評〉新しいオフィス空間の在り方が見事に示されている。ふんだんに使用された木材は空間に暖かみを与え、透明で広々とした階段室とその周囲のスキップフロアは、社員同士の活発なコミュニケーションを誘発させている。構造システムもうまくマッチしており、構造設計者の力量を感じることができた。このようなオフィス空間の提案を受け入れた施主も含め、関係者一同に敬意を表する。（萬田審査委員）

前　：岸下和代　後左：岸下真理
後中：稲垣　誠　後右：都倉泰信

岸下真理
1969年生まれ／1993年 金沢工業大学工学部建築学科卒業／1995年 金沢工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了／1995～2000年 無有建築工房／2001年 Atelier KISHISHITA共同設立
[主な建築作品と受賞歴]
2007年 第53回大阪建築コンクール渡辺節賞「但東町の賤ヶ屋」／2011年 第57回大阪建築コンクール大阪府知事賞「甲陽園目神山の家」／2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

岸下和代
1970年生まれ／1993年 金沢工業大学工学部建築学科卒業／1993～1996年 金沢計画研究所／2001年 Atelier KISHISHITA共同設立
[主な建築作品と受賞歴]岸下真理と同じ

都倉泰信
1972年生まれ／1995年 金沢工業大学工学部建築学科卒業／1995～1996年 若林廣幸建築研究所／1997～2001年 内田建築設計室／2001年10月 Man*go design and Architect設立／2010年 株式会社Man*go designに改組
[主な建築作品と受賞歴]2008年 2008リモデルスタイルコンテスト 審査員奨励賞「岡本ハウス」／2008年 第1回JIA近畿KIA釜山日韓若手建築家workshop優秀賞「重層町屋」／2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

稲垣　誠
1980年生まれ／2002年 近畿大学理工学部建築学科卒業2004～2007年 和以貴建設株式会社／2008年 Man*go design参画
[主な建築作品と受賞歴]2013年 第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞「日本圧着端子製造株式会社」／2014年 第17回木材活用コンクール林野庁長官賞「日本圧着端子製造株式会社」

大阪府知事賞　榆の木テラス

設計者　石井良平（石井良平建築研究所）

撮影　多田ユウコ

石井良平
1955年生まれ
1979年 北海道大学工学部土木工学科卒業
1983年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1983〜1995年 株式会社坂倉建築研究所大阪事務所
1995年　石井良平建築研究所設立
2002〜07年 鳥取環境大学環境デザイン学科 非常勤講師
2006〜13年 神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科 非常勤講師
2007年〜　大阪工業大学空間デザイン学科 非常勤講師

［主な建築作品と受賞歴］
1998年 東条湖の山荘
2000年 浜寺公園の家
2000年 菜園と生きる家 第1回「大地に還る住宅」設計提案競技優秀賞
2002年 豊中文化幼稚園
2013年 榆の木テラス 第5回 建築人賞

建築位置／四条畷市
建物用途／長屋（賃貸住宅）
建 築 主／松井典子
施 工 者／株式会社林建設
竣工年月／ 2012 年 2 月
構　　造／ W 造
階　　数／地上 2 階
敷地面積／ 431.93㎡
建築面積／ 217.38㎡
延床面積／ 426.72㎡

〈審査講評〉単純に並列しても成り立つ長屋を互い違いにずらすだけで、密集市街地の新しい空間ボリュームの提案となっている。ずれによってさりげなく分割された敷地内の屋外空間は、親密なスケール感と繊細なプライベート／パブリックの関係を生み出している。一見、単純で形式的にもみえる空間分節の手法だが、敷地の周辺状況や寸法感覚を的確に捉えた設計者によって、優れた集合住宅となっている。

（長坂審査委員）

大阪府知事賞　中之島フェスティバルタワー

設計者　江副敏史（株式会社日建設計）

江副敏史
1957年生まれ
1980年 京都大学工学部建築学科卒業
1980年 日建設計入社
現在 同社フェロー役員デザインフェロー

［主な建築作品と受賞歴］
2008年 福山市中央図書館（日本建築学会作品選奨、日本建築士会連合会賞、JIA中国建築大賞）
2006年 大阪弁護士会館（日本建築学会作品選奨、BCS賞、JIA関西建築家大賞）
2005年 兵庫県立芸術文化センター（日本建築学会作品選奨、BCS賞）
1999年 神戸国際会館（日本建築学会作品選奨）
1995年 大阪ワールドトレードセンタービルディング（日本建築学会作品選奨）

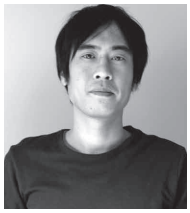
建築位置／大阪市北区
建物用途／ 本社ビル、劇場、事務所
建 築 主／株式会社朝日新聞社
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／ 2012 年 10 月
構　　造／ SRC 造・S 造・RC 造
階　　数／地下 3 階　地上 39 階
敷地面積／ 8,150.09㎡
建築面積／ 5,410.00㎡
延床面積／ 146,054.00㎡

撮影　古田雅文

〈審査講評〉長年親しまれてきた旧フェスティバルホールが、新たな複合高層ビルとして再生された。低層階に巨大な大空間を擁し、その上部にセンターコアをもつオフィスビルを載せるタイトな与条件を編成したものであるが、立面構成の分節化により、往年の中之島の雰囲気を受け継ぐ品位を保っており、そこに投入された設計から施工に至る技術力の集約が、新たな都市景観の生成に寄与している。（本多審査委員長）

渡辺節賞　斑鳩の家

設計者　中山大介（中山建築設計事務所）



中山大介
1978年生まれ
2001年 大阪市立大学卒業
2003年 京都府立大学大学院修了
2005〜2010年 HTAデザイン事務所
2010年 中山建築設計事務所設立
現在　摂南大学、京都橘大学、大阪工業技術専門学校 非常勤講師
［主な建築作品］
2012年 斑鳩の家
2014年 夕陽丘の家

建築位置／奈良県生駒郡斑鳩町
建物用途／一戸建て住宅
建 築 主／廣瀬智也
施 工 者／杢工舎
竣工年月／ 2012 年 3 月
構　　造／ W 造
階　　数／地上 2 階
敷地面積／ 279.66㎡
建築面積／ 67.24 ㎡
延床面積／ 121.68㎡

〈審査講評〉心洗われる小さな木造の住まいだ。敷地は法隆寺の五重塔を望むのどかな田畑の中にあり、そこに 7.8 m角の平面と燻瓦の方形屋根を載せた延 120㎡ほどのヴォリュームが置かれたシンプルな造形である。だが、住まいが備えるべき条件に過不足なく応えつつ、研ぎ澄まされたプロポーション感覚によって、比類ない、しかしどこまでも居心地の良い凛とした空間が実現している。建築の原点を見つめようとする姿勢に共感が集まった。
（松隈審査委員）

渡辺節賞　東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス

設計者　國本暁彦（株式会社竹中工務店）

撮影　稲住泰広

國本暁彦
1974年生まれ
1997年 京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業
1999年 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形工学専攻修士課程修了
1999年　株式会社竹中工務店入社
2006〜07年 株式会社槇総合計画事務所
現在　株式会社竹中工務店 大阪本店設計部
［主な建築作品と受賞歴］
神戸メリケンパークオリエンタルホテル・アクアホール〈国際照明デザイナー協会賞、グッドデザイン賞、SDA賞（優秀賞）〉
4 WORLD TRADE CENTER（槇総合計画事務所）
竹中大工道具館増築リニューアル〈グッドデザイン賞、インテリアプランニング アワード2010、建築と社会賞〉
第56回青年技術者（日本建築協会）
東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス〈グッドデザイン賞〉

建築位置／堺市南区
建物用途／学校
建 築 主／学校法人 大谷学園
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／ 2013 年 3 月
構　　造／ RC 造・S 造・SRC 造
階　　数／地上 5 階＋搭屋
敷地面積／ 15,502.59㎡
建築面積／ 5,273.21㎡
延床面積／ 14,142.05㎡

〈審査講評〉地形に馴染みながら雁行する建物ボリュームは、フロアラインを走る小庇により輪郭を引き締められると同時に水平性が強調され、伸びやかなファサードを形成している。片廊下＋回廊構成により内と外を巧みに編み込んだプランニングと素材を生かしたデザインは、風が通り抜けるさわやかで切れ味のよい建築に結実した。中庭の作り込み等やや残念な部分もあるが、作品全体をまとめた設計者の力量を評価し今後の展開に期待したい。
（濵田審査委員）